

埼玉県立歴史と民俗の博物館（特別展）見学と大宮氷川神社参拝

2018—2—4 記 小川 雅愛

■実施日：平成 30 年（2018 年）2 月 1 日

■参加者：19 名（内 他サークル 3 名）

<はじめに>

平成 30 年のご存知の通り、日本が近代国家としての出発点となった明治維新から 150 年となります。

昨年来、当会としてはこれに因んだ動きを本年度の活動の指針にするとともに、今まで受講してきた諸先生の講座や講演をうけて幕末・維新期の歴史を足で確かめてみる活動を取りいれたいと考えていました。

そうした中、博物館で 1 月 2 日～2 月 12 日に「明治天皇と氷川神社」特別展があることをネットで知り、厳寒のさなかでしたが、標記のテーマが今年度の活動のスタートとしてふさわしいと思い、実施することにしました。

1 月 22 日（月）の関東地方としては記録的な大雪が融けないままのところへ、また実施予定日の雪予報などあり、まさに綱渡りの実施となりました。幸いにも天気をもって助かりました。博物館の見学では写真撮影は禁止されていますので、どうしても報告は抽象的になります。そこで、今回は特別展見学の 5 日前に特別展を主担当で企画された学芸員さんが博物館講堂でお話になられた「歴史民俗講座」も少し加味し、ご報告します。

<スケジュール>

10 時過ぎに博物館に到着、10 時 30 分から約 1 時間特別展見学、11 時 30 分から館内の食堂で予約した昼食とり、1 時 30 分まで引き続き常設展も見るというスケジュールでしたが、午後は天気が崩れてくる気配でしたので早めに見学を済ませ、氷川神社に向かいました。

<特別展見学>4 部構成 明治天皇の東幸、氷川神社の行幸・御親祭、ほか

○明治元年 明治天皇が京都から江戸まで東幸された。この時は戊辰戦争のさなかでもあり、警護は厳重、随行員は 3000 人。当時の東海道の行列絵が描かれているが、さながら大名行列のようです。

当時の絵師は実際の行列は見ていないので想像画という。また、街道脇の農作業を明治天皇が初めてご覧になられた絵があったが、実際の農作業ではないらしい。

○明治天皇は東幸されたあとすぐに氷川神社に行幸されたが、これは東幸当初から折りこまれたイベントと考えられる。決定から氷川神社行幸・御親祭まで 13、14 日。

したがって、沿道の地域は対応で忙しさの極にあったようです。

○天皇が途中の御休所の玉座（畳）の畳表が、当時のまま展示されていて、かなり古く傷んでいたが、大事に保管されてきたらしい。畳の縁飾りは当時の高貴な人しか使用できなかった特別な文様のようです。なお、元年の行幸随行員 650 人、2 回目の明治 3 年行幸は 550 人と伝えられます。戸田の渡しには、立派な船橋が架けられた絵が展示されていました。



特別展パンフ

○今回の展示を見てよかったのは、普段は見ることはできない氷川神社蔵の貴重な品々をみられたことです。それは①氷川神社行幸絵巻（県文化財）650 人の大行列の様子を描いたもの。これを描いたのは川越の絵師 山田氏 のちに川越氷川神社の神主になられたようです。②氷川神社に奉納された黄金 2 枚の代金で鑄造された御神鏡、かなり古くなっているが当時はピカピカに磨かれていました。③毎年の祭礼、勅使が奉納する幣帛を担ぐ駕籠と幣帛（現物）を見ました。幣帛は白色他 3 つの色で合計 4 本の糸巻状の絹糸のように見え、鮮やかな光沢をしていました。

○明治天皇行幸の通行の際、老年の人、奇特者に褒美。また、水害の被災者などにも見舞いのお金を下されたことも展示してありました。

<明治天皇のお召し物。調度品、日常のお使いの品ほか>

○儀式に用いる特別なお召し物（黄金色で即位の儀式に用いる・・・来年の天皇の儀式

を注目したい)、明治天皇は御年 16 歳で氷川神社への行幸でした。展示品ではないが、ご在位中の 30 年間で和歌を 1 日 4 首以上、おおよそ 9 万 3 千首を詠まれたといわれます。

また、特別展の御肖像の絵を見ているような衣服やスラックスの展示もありました。

○明治 16 年 明治天皇が飯能行幸の際の行在所（元町の斉藤与惣次氏）拝領の金の菊紋入り朱色の漆器も展示されていました。聞くとところによると、行在所はほとんどが無くなるか一部を残すのみで、所沢の行在所が最も良い状態で保存されているようです。斎藤家に感謝したいと思います。今回の目的の一つは明治 16 年の飯能行幸がイメージできるのではないかとということもありました。

○特別展を見ての感想では、展示の品々を収集すること自体が大変と感ずし、広く関係する品々を調査されていることに、さすが県の施設で収集能力の高さに敬服いたしました。

＜常設展＞ 略

＜氷川神社＞

○博物館から氷川神社へは大宮公園内の道を歩きました。神池の付近から入り、参拝。明治天皇は向かって奥の左の本殿に幣帛を奉納されたようですが、拝殿の奥にあり立入ることはできません。氷川神社の歴史を知りたいという目的もありましたが、今回は不完全燃焼となりました。なお、氷川神社は明治 4 年武蔵国一宮、官幣大社となり、それまでの神主、禰宜の家は交替となりましたが、戦後になって復活、現在は東角井家が神職を継がれていると聞きました。



参道の行幸絵看板

○参道の途中に大きな明治天皇行幸の絵巻の絵看板があります。雨が降り続き、そこで集合し、解散予定が ながれ解散になってしまっって本日の行事を終えました。

看板の随行者の絵で特別展の氷川神社行幸絵巻を推察ください。

今から 50 年前の明治 100 年時はよく「明治は遠くなりけり」と言われたように記憶していますが、個人的には当時、愛知県犬山市の明治村に旅したこと以外、特別な感慨がなく過ごしていたように思います。今回は明治維新时期をより深く感じる一日になりました。



博物館ロビー

＊ ＊ 今年はサークル内を5グループに分け、各活動の協力体制をとっています。

今回の担当：Cグループ 粕谷 昇・原 正次・佐野弘太郎・山本苗子・関根平三郎
(幹事) 小川雅愛 (幹事) 大舘 徹